

IV-52

空間秩序から見た住宅地の景観特性

東京大学大学院 学生員 田邊 顕
 名古屋大学 正会員 佐々木 葉

1 はじめに

現在の郊外型住宅地を景観体験の面から捉えると、垣根や門、塀などの表層のデザインに街並み向上のための努力がうかがえるにも関わらず、街全体の印象は均質で個性が感じられない場合が見受けられる。こうした現状に対し、本研究では住宅地の全体的な骨格構成や配置計画の段階から景観体験の豊かさを考慮する必要があると考え、そのために住宅地のグランドデザインを考える際の規範的概念として「空間秩序」を仮説的に導入し、実際の景観特性調査に基づいて空間秩序の概念に対応したデザインボキャブラリーを抽出、体系化した。

2 空間秩序の概念規定

我々は、ある街の構成を認識しようとするときその街を構成するエレメントを手掛かりとする。例えばある街で、直交する縦道と横道の組み合わせで矩形の街区が連続していることに気づけばその街の街路パターンに直交グリッドという均質な秩序を感じ取るだろう。このように景観体験を通じてえられる街の構成に秩序を感じることが街の個性を醸し出すと考えられる。そこで、本研究で述べる空間秩序とは

「空間の諸要素が相互に一定の関係、規則によって結び付き、調和を保っている状態」

と、定義した。また、空間秩序として感じ取られるものには多くの状態があると考えられるが、郊外型住宅地に関係するものとして、次の5つの状態を表わす概念を提示する（図 1）。

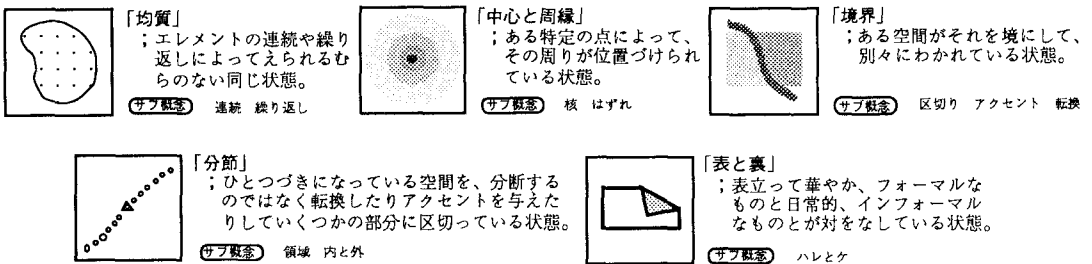


図 1 空間秩序の概念図

以上のような空間秩序の概念が実際にどのように現われているかを事例調査によって検討した。

3 調査対象事例

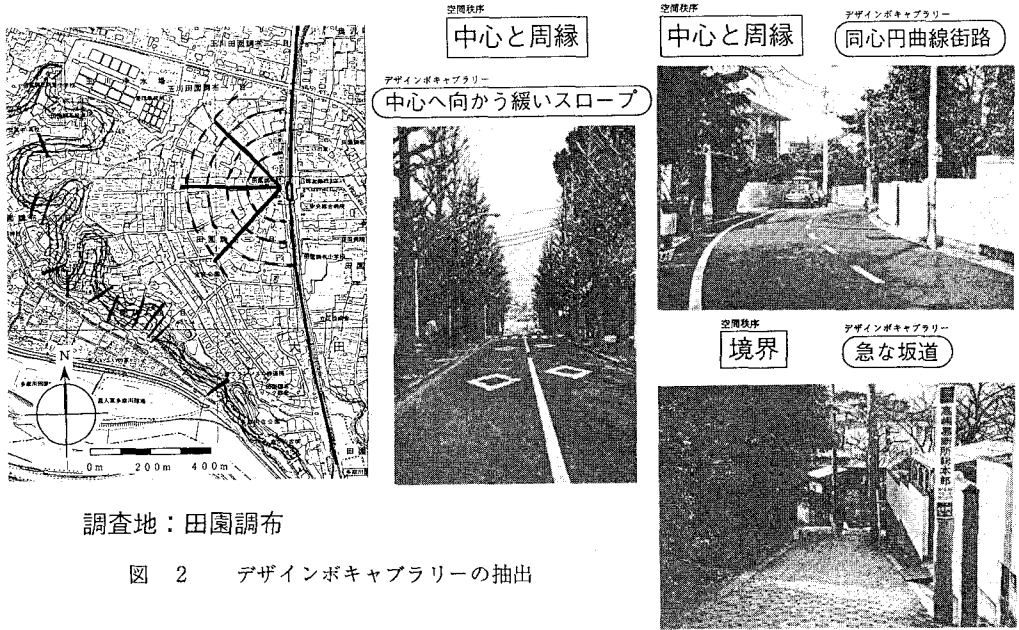
調査対象は、戦前に東京の郊外に開発された住宅地で街並みに関して一般的に評価の高い、田園調布、国立、小平、大泉、洗足、成城、常盤台の合計7件の事例である。このような住宅地を、実際に歩いてみて、空間秩序をよく感じさせるエレメントの状態をデザインボキャブラリーとして抽出した。

4 デザインボキャブラリーの抽出

田園調布はその街路パターンが有名だが、これを空間秩序という面から捉えてみると、まず地区の中心部には、駅に向かう緩いスロープのある街路があり、このような並木によってしばらくこまれた焦点に駅を見ながらゆるい坂を下る、といった体験を通して、この街の駅を中心とした空間構成を把握できる。

また、これと対照的な景観体験である、曲率一定な街路を歩く場合には、駅から等距離のところをめぐっていることを感じ、また、その曲率によって駅からの距離を感じることができる。このようにして「中心へ向かう緩いスロープ」と「同心円曲線街路」はどちらも「中心と周縁」という空間秩序をよく表わしているといえ、デザインボキャブラリーとして抽出した（図 2）。同じく田園調布の例だが、この地区の端部には崖があり、その崖に急な坂道が何本も通っている。このような急な坂道を上り下りする際に、よう壁が目についたり、遠くへ眺

望が開けたりという景観体験をすることで崖が領域を分ける境界になっていることを、認識できる。つまり、急な坂道は領域を分ける「境界」という空間秩序を表すデザインボキャブラリーと見なすことができる（図2）。



調査地：田園調布

図2 デザインボキャブラリーの抽出

このようにして、空間秩序をよく表す印象的な景観体験を可能にするようなエレメントを事例調査によって抽出し、デザインボキャブラリーとしてまとめたものが（表1）である。この表の意味するところは、住宅地を構成するエレメント、即ち、計画における操作対象のデザインを、それが表す空間秩序と結び付けて整理、意味づけすることができたというものである。

表1 空間秩序によるデザインボキャブラリーの体系

空間秩序概念	操作対象	街路			住宅敷地区画	商業施設	学校公園	鉄道駅
		街路パターン	幅員 線形 勾配	交差形状				
均質	連続繰り返し	直交グリッド	幅員一定路	十字路	並木	矩形の敷地割り	ワンブロック公園	街路に沿った駅舎
中心と周縁	核はずれ	放射状街路 同心円曲線街路 歪んだグリッド	中心に向かう 緩いスロープ 曲率一定カーブ 駅を中心とした幅員構成		ビスタの構成要素としての並木	幾何学形と不整形	駅前商店街 傾斜地の不整形学校、公園	ビスタの焦点の駅舎 駅前広場
表と裏	ハレとケ		シンボルロード バス通り 路地		並木	大区画と小区画	商店街の表銀座と裏銀座	正門と裏門 表口と裏口
分節	区切りアクセント転換		クルドサック	T字路 五叉路	大木 見栄えのよい木	大区画の屋敷	おしゃれな店	つきあたりの公園
境界	領域内と外	環状街路	シンボルロード 急な坂道	繰り返しのT字路	密度の高い並木 二列植栽による並木		大区画の学校、公園	地区の内部、縁を通る鉄道路線

5 結論

以上より、本研究の結論として郊外型住宅地の景観を考える際に空間秩序という概念を導入し、この空間秩序をよく表わしているエレメントをデザインボキャブラリーとして抽出、体系化することができたと考える。